

厨身見聞録 レストランぐらんじゅ



シェフの一言

レストランぐらんじゅでは、伝統的な地方料理のレシピに新しい感覚を取り入れたどこか懐かしく温かみを感じられる料理を用意しております。料理スタッフの心づくしのお料理と、気兼ねなく話せるホールスタッフが皆様をおもてないたします。時を忘れて心ゆくまでお楽しみくださいませ。

「美しい料理は、人の心を優しくする!」

レストランぐらんじゅは、国際障害者交流センター(愛称ビッグ・アイ)内にあり、開放的な大きな窓がある明るい雰囲気のレストランです。モーニング、ランチ、ディナー、お弁当、カフェ、ペースト食まで、誰もが楽しめます。お近くにお越しの際は、ぜひ、一度お試しください。



営業時間: 9:00~21:00 (ラストオーダー 20:30)
 料金・時間帯: モーニング(7:00~9:00 完全予約制) 9:00~11:00 予約不要) 800円~
 トースト、ハムエッグ、サラダ、フルーツ、ドリンクバー付
 ランチ(11:30~14:00) 900円~
 メインディッシュ、ライスorパン、ドリンクバー付
 ディナー(17:00~21:00 ラストオーダー 20:30) 2000円~
 メインディッシュ、ライスorパン、スープ、デザート、コーヒー or 紅茶
 アクセス: 南海泉北線 泉ヶ丘駅下車 徒歩5分(国際障害者交流センター(愛称ビッグ・アイ)内)



古着屋りぶらのちびっこモデルのご紹介!!

夏休みに古着屋りぶらでちびっこモデルを募集したところ、たくさんのご応募があり、素人撮影で申し訳ないくらいの人數ちびっこ達が集まりました。皆さん、本当にありがとうございました。なびの紙面をお借りして、りぶらのちびっこモデル達を、不定期でご紹介させていただきます!

美人姉妹のサンゴちゃんとシンジュちゃん

まだ、こんなに小さいのに、美系な姉妹です。撮影した日は、かなり暑かったんですが、そんな雰囲気も全くしません。かわいい笑顔でいやされます。

今回のモデルちゃん企画で着てもらったお洋服の他にも、可愛い、カッコイイお洋服がいーっぱいありますので、どうぞ、りぶらにお越しください!!



2人で並んでもらいましたが、ワンピース姿が、お嬢さんな雰囲気を醸し出していますね。



お姉ちゃんのサンゴちゃん、ビュウ柄のトップスがめっちゃ可愛いですね。妹のシンジュちゃんは、チェックのワンピースが可愛い。



普段着な雰囲気の洋服です。手をつないで、遊んでもらいました。お姉ちゃん、大好きって、シンジュちゃんが言ってる感じがですね。



発行日 2012年10月1日
 創刊日 2007年1月1日
 発行 株式会社ナイス
 代表取締役 富田一幸
 発行人 榎前山企広
 印刷 住居所 大阪市西成区長橋3-6-33
 電話 06-6563-1156
 E-mail info@nice.ne.jp
 HP http://www.nice.ne.jp/

Aダッシュ祭開催!
 =>詳しくは10ページをご参照ください

ビルメンテナンスからパークマネジメント



— 社会と共に —

株式会社 美交工業 専務 福田 久美子

10月20・21日と久宝寺緑地で「ハッピーアースデイ大阪2012秋」が開催されます。2011年には参加者が1万人を超えた大イベント。会場の久宝寺緑地の指定管理者JVの代表企業(株)美交工業はビルメンテナンス分野で障がい者やホームレスを多く雇用し、地域とのつながりでイベントも生み出す社会的企業。今回のダイアログでは、美交工業から福田専務と加藤部長をお招きし、その戦略について語っていただきました。

インタビュー：田岡秀朋(編ナイス)

働きやすい職場

美交工業の社名は「美装」の“美”と「交通」の“交”をとって生まれたものです。その名の通り、交通局関連業務や行政庁舎などのメンテナンス業務が経営の柱でした。

ビルメンテナンス業は、人々が快適な環境で生活を送るうえで日々欠かせない

仕事です。でも、早朝勤務や体力しごと、ゴミ収集やトイレ清掃などのきついイメージでお世辞にも人気産業とは言えず、現場があるのに人が集まらないこともあります。好景気の時は時給を上げることができましたが、景気が冷え込むとそれもできない。厳しい景気の中で生き残るには、様々な制約の中でスタッフが「働



きやすい職場」を提供できるかがポイントになっていたと思います。

でも、バブル崩壊後の金額の落ち込みは異常でした。1億5千万円が5年後には3千万円に下落した物件もあります。あまりのダンピング競争で先々の経営を考えると先行きに不安を覚えた記憶があります。

その当時から2つの転機がありました。1つはエル・チャレンジとの出会い。もう1つは公園での指定管理業務の受託です。

4人に1人

障がい者雇用率は27%でスタッフの4人に1人が障がい者です。障がい者雇用のセミナーなどに講師で呼ばれることも多いのですが、よく問われるのが「法定雇用率以上に雇用するのはなぜ?」「社会貢献ですか?」ということです。

確かに大阪府・市が推進した「行政の福祉化」や「総合評価入札制度」などの導入で、障がい者雇用のインセンティブが高くなった背景はあるにしても、何よりも障がい者が貴重なスタッフ・戦力として働けると実感したことが分岐点になっています。

はじめの一步は確かに、社会貢献的な

気持ちもありましたが、企業の慈善や社会貢献だけで障がい者雇用を進めるには、限界があります。戦力として期待されずに働くスタッフは、本当に幸せでしょうか。

戦力化という意味では、エル・チャレンジがしっかりと障がい者を育成してくれているので、非常に助かります。この人材育成機能がなければ、いくらインセンティブがあっても、ここまで雇用はできなかったと思います。そして、障がい者雇用を進めたことで、後々の日本語が話せない中国帰国者やホームレスの方々を雇用するうえで大いに役立ちました。

今から考えると「働きやすい職場」という点で、障がい者雇用が企業力を高めることにつながっていました。この気づきが、ホームページのトップにもある「社会のためにはじめたことが会社のため」という言葉です。



公園で寝ている人から働く人へ

もう1つの転機は住吉公園の指定管理業務の受託です。2005年に指定管理業務を受託する前から、大阪市内の小さな公園の巡回清掃をしていたので、公園に野宿者が多い現状は知っていました。

その当時、住吉公園にも野宿者が数名おられたはず。語弊を恐れずにいうと、世間的には「野宿者=邪魔者」のようで、単に公園から退去してもらうことばかりが求められていた気がします。

でも、障がい者をはじめとする様々な困難を抱える人々の雇用の経験から、野宿者の方々が公園で働けば「退去」に代わるホームレス問題のひとつの対案になるのではと思い、「公園で寝ている人から働く人へ」を掲げ、NPO釜ヶ崎支援機構とのジョイントで指定管理者に選ばれました。

パークマネジメント

でも、ここからが大変でした。公園の指定管理者は「維持管理」だけではなかったのです。利用者や地域団体との調整、花や緑の管理など業務が多岐に渡ります。メンテナンスのプロでしたが、運営管理はまだままだでした。ゴミの不法投棄や花見シーズンのトラブル、イベント開催、

勉強会への参加などなど、1年目は走り回っていた気がします。

ただ公園管理や造園の専門家でなかったことが、利用者目線で公園の魅力をとらえることに役立ったと思います。たとえば、「犬のトイレ」。公園では<〇〇禁止>といった看板が多く見られ、管理上はやりやすいかもしれませんが、利用者にとって禁止看板は心地よいものではありません。それよりも一緒に取り組める仕掛けを用意して、共に公園を愛してもらえる方法はないかと考えて、犬のトイレボックスを配置しました。フンが0になったわけではありませんが、複数の飼い主さんからはおもしろいと声をいただきました。



か?とぐるぐる頭のなかで考えました。

そんなときに始めた取り組みが「ハッピーアースデイ大阪」です。おしごと興業の地域ネットワーク力をお借りし、学生さんに声をかけたのがはじまりです。“この指とまれ”でやりたい社会人・学生が実行委員会をつくり、公園管理者は共催者として参加し、イベントを一緒に作りあげました。

このハッピーアースデイ大阪を契機に、地域のネットワークが広がりました。地域イベントに声をかけていただく機会も増えましたし、地域の方々から公園でこんなしたいというアイデアが集まるようになりつつあります。

考えてみれば、地域資源ということ意識するあまり“公園で”とか“公園が”という想いが強すぎて、地域の一員として認められる努力を忘れていたのかもしれませんが、公園を利用してもらおうと考えるだけでなく、公園が地域に出ていく。その営みを通じて、公園が地域資源として活用され、公園力を地域力に還元することにつながる。そう思い始めています。

いま、久宝寺緑地は指定管理者公募中です。応募書類はもう提出したので、どうすることもできませんが、これからも地域の一員として長く久宝寺緑地の指定管理者を続けていきたいですね。

その他にも公園スタッフを養成しようとAワーク創造館や他の公園の指定管理者と連携し、3カ月のパークマネジメント講座を開講したり、地域住民に名付けていただいた住民参加の「すみすみ公園フェスタ」を主催したりしました。すっかりどっぷり公園にはまり、住吉公園の指定管理5年目にもう一つの公園「久宝寺緑地」の指定管理業務がスタートしました。

地域資源

久宝寺緑地は八尾で活躍する社会福祉法人や人権団体からなる「おしごと興業合同会社」がパートナーです。公園が貴重な地域資源であることを4年間の住吉公園の管理で実感し、公園の魅力を地域力に還元したい思いから、JVを結成しました。

でも、地域資源ってなんだろうと素朴な疑問も湧きました。住吉公園でも、なかなか利用者と管理者という潜在的な意識は変わりません。地域資源と言いつつも、どこかに管理者がいて、利用者=お客さんといった関係があって、フラットな関係にはなれない。イベントを一緒に作るというよりは、参加していただく、参加するという関係にとどまり、管理者の自己満足として地域資源活用と言っているだけではないか? 地域の声が本当に反映されているの



第12回

プラネタリウム



写真1：大阪科学館に展示されている「カール・ツァイスII型25号機プラネタリウム」

ハレー彗星、あるいはペルセウス座流星群やふたご座流星群などなど、彗星から放出される流星の軌跡を追っかけ、月の満ち欠けや土星のリングを息子たちといっしょに観察することが好きでした。ある時は山の頂上でキャンプをしながら、あるいは息子の通う小学校の校庭で、地元のアマチュア天文家らと呼ばれ星空観測会を催したり、はたまた公園やペランダで夜空を覗いたり。おかげで息子の担任から、生徒たちに太陽系の話をしてほしいと頼まれ、1時間の理科授業をさせてもらったこともありました。息子の前での授業は恥ずかしく、しかし幾分誇らしい気持ちもありました。

私の天文経験は、格別な望遠鏡で天体を仰ぎ見るわけではなく（本当はビクセンとかタカハシの本格的な天体望遠鏡をのどから手が出るほど欲しかったのですが、ついに買えずじまいでした）、オペラグラスのような安手の双眼鏡を片手に星を追いかけて楽しんでいたので、空への憧れは割合小さい時からでして、たとえば児童雑誌の読者プレゼントコーナーには、特賞商品として魅力的な天体望遠鏡が踊っていたりして、あこがれたものです。そのあこがれの淵源にはプラネタリウムの存在がありました。

現在、西区四ツ橋といっても四つの橋はおろか川の流れもありません。1936(昭和61)年、大阪を東西に流れていた長堀川は埋め立てられて現在の長堀通となり、また現在南北に走る阪神高速環状線の真下を流れていた西横堀川も同様埋め立てられてしまいました。この二つの川が交差する十字上に四つの橋である上繁橋・炭屋橋・吉野屋橋・下繁橋が相互に向き合い架かっていたのでした(写真2)。この河川整備のおかげで、よく歩いた心齋橋さえも取り払われてしまったのでした。

「大阪市立電気科学館」は昭和12(1937)年、これらの橋の北西に建設されたそうです。現在でいえば四ツ橋筋と長堀筋が交差する東角で、私の小学生の頃(1950年代)、新しがり屋の父親に連れられ、市電でよくデンキカン(私は当施設をこう呼んでいました)に通いました。その頃、珍しくモダンな容姿で、全館が科学や電気を中心とした展示がなされていたのですが、最大の呼び物はプラネタリウムでした。私たち子どもは電気や科学という言葉には全幅の信頼と希望をいだいており、その憧れは今でいうテーマパークに近いものであったのかもしれませんが。そこでは電気に関する知識、天体への解説など、テーマごとに各階で機器や写真などがディスプレイされていました。



それを見る楽しみはあったのですが、最上階でのプラネタリウムの存在はもう別格でした。

入館の直前までムネがドキドキ!というワクワク感が充満していて、それは映画館に入る際の期待感にも似ていたのです。映画館も上映時には照明が徐々に消えていき漆黒の闇を作り出します。デンキカンの、あの黒く精悍で頼もしいプラネタリウムの雄姿を見る時もやはり闇にいざなわれるのでした。

当時私が好きだった「カール・ツァイスII型25号機プラネタリウム」はデンキカン廃館と同時に役割を終えました。1989(平成元)年、新たに「大阪市立科学館」として中之島に創設され、この「大阪市立科学館」地階にプラネタリウムホールが生まれ、このホール脇に「カール・ツァイスII型25号機プラネタリウム」が展示されています(写真1)。

ドイツ生まれのこの機械は、月や太陽、惑星を初めとして6000個の星々を、天球を模したスクリーンいっぱいに投影させた当時のハイテク機でした。この機械を含め現在世界で3台しか残ってなくて、引退時までの52年間、200万人の人たちがこのカール・ツァイス機を楽しんだと解説板には記されています。この200万人の中に私の鑑賞回数も入っているのだと思うと、このカール・ツァイス機にますます愛着を覚えました。

今回、久しぶりに中之島の「大阪市立科学館」(写真3)に行ってきました。ここも各階がテーマ化されていて、4階は「宇宙とその発見」、3階は「身近に科学」、2階は「親子で科学」、1階は「電気とエネルギー」と電気や科学を中心に参加型の空間が備えられています。デンキカンで

は最上階であったプラネタリウムホールは地階にあり、大スクリーンのもと、全天を鑑賞できるようにリクライニングシートでかなり見やすく施されています。デンキカンの頃のイスは粗末で、自分の位置より後方の星の出現には、首を移動させなければならなかったのですが、現在のホールの設備ではリラックスして鑑賞できます。

俯瞰された大阪の町並みが映し出され、星を見る自分たちの位置を確認します。昔と変わらず、東の方角に太陽が沈む頃、プラネタリウムが演出する天体の暗闇がスタートしはじめます。さすが少年のムネドキ感も薄らいだとはいえ、星々の営みや、天体の気の遠くなるような時間を想像させてくれる技術を素晴らしいと思いました。そして、やっぱり天体への憧れの源泉は

このプラネタリウムにあったと確認したのです。しかし最新のプラネタリウムの造形には、カール・ツァイスII型ほどの魅力は感じませんでした。

このころは仕事で忙しいなどと自己弁護して、夜空を眺めることが久しくなってきたことが本当に無念です。



写真2：昭和35年当時の四ツ橋周辺と「大阪市立電気科学館」(写真提供：産経新聞社「昭和の大阪」p.53より)



写真3：北区中之島の「大阪市立科学館」



学徒出陣で南京に送られ、聖戦と云う名の強奪を目の当たりにした。敗戦でシベリア捕虜収容所に送られたが、スターリンに追放された共産党員を友に得て、収容所内生活改善闘争で生き残った。帰国後、GHQ からスパイの嫌疑をかけられたが、「ソ連の友人が、民主主義者になってくれと言ったので、民主主義者になるつもりだ」と言って難を逃れた。帰国船では、一等船室は旧将校達が占有し、船倉に寝て帰ったが、次のような言葉を思い出してノートに書きつけた。一立派な客船で航海を続ける人達は、波の底の世界の美しさと、そこに如何にすばらしい宝の数々が蔵されているかに少しも気づかない。たとえ気付いたとしても、水にぬれるのを恐れて、飛び込んでのぞこうとはしないものだ。この言葉は、帰国後の私の生きざまを貫く一つの信条となった。

故鈴木祥蔵さんが、晩年口述筆記で著した『ラーゲルシベリア捕虜収容所—の中の青春』のあらましである。短文だが、その時代を翻弄した3つの思想の「諸関係」と「闘争」が見事に描かれていて、鈴木先生の原点に触れた気がした。鈴木先生は、最初、真の民主主義者になってくれというソ連の友人の言葉の意味をつかみかねたが、帰国後、様々な経過を経てその意味が次第に分かるようになったと書いておられる。その民主主義の原点が、捕虜収容所での、兵隊内階級を解放するこ



無ければみんなで作り出そう

とであったり、収容所監督者の食糧の横領を告発することであったり、収容所近隣のロシア人と協力し、ついには発電所まで造ってしまうようなことであった。若き日の鈴木先生は、苦役の渦中で「波の底」を見ていた。

いま、ボク達は、鈴木先生の青春時代に似た「諸関係」と「闘争」の只中にある気がする。政権交代、日本維新...あの時代のような物騒さこそないが、言葉は峻烈になってきた。一人間が飢餓状態から抜け出す時に、大きな役割を果たすのは、実際に物を生産することである。ラーゲル内で暮らしを一緒にした人たちは、「無ければみんなで作り出そう」と云うことを実践してくれた。それは、徐々に私達の捕虜生活の内容を豊かにしてくれた—この本の、このくだりを、ボクは、就労支援や社会的企業を重ね合わせながら、何度も読んで、「無ければみんなで作り出そう」と繰り返した。

この本は、明石書店から1999年に出版されたが、ほとんど絶版になっている。学生時代の友人が贈呈してくれたのだが、彼は教員で、日教組の役員でもあるから、「諸関係」や「闘争」の只中で集中砲火を浴びている。この時代、この大阪で、一番「波の底」を見てるのは、彼かと思った。もし、ご希望の方がおられたら、この本をお貸しします。ご連絡ください。

株式会社代表取締役 富田一幸



One Step for Action!

PICK UP EVENT!!

アースマーケット

たくさんのごだわりを持ったお店がなんと約100店舗！飲食をされる方はぜひマイ食器を持ってご来場を！いいことあるかも！

アースステージ

テーマは「ずばり『参加型！』みんな〜アースステージに集まれ〜!! 一緒に楽しもう！」

わくわくワークショップ

見て、聞いて、ふれて新しいことを感じよう！ものづくりや楽しい体験ができるよ！

サポーターズエキスポ

ハッピーアースデイ大阪に賛同する企業が普段取り組んでいる環境活動を発信！さらにこだわりの逸品を通して交流しよう！

キャンドルナイト(20日)

同日開催の『廃油を再利用したキャンドルづくり』で作ったキャンドルで素敵な夜を過ごそう！

イザ!カエルキャラバン!(20日)

使わなくなったおもちゃを交換したり、楽しく防災について学べる催しがいっぱい!ポイントを貯めて、素敵なおもちゃをゲットしよう!

アースデイヨガ with Happy!

心地よい青空の下、公園でヨガをしませんか? ヨガを通してみんなでハッピーになろう!

One Step for Action!
ハッピーアースデイ大阪ではマイ食器の持参をお願いしています。

ハッピーアースデイ大阪と一緒に作る実行委員および当日スタッフを募集しています。
詳しくは公式ホームページまたはメールで
HP <http://www.happy-earthday-osaka.jp/>
E-mail info@happy-earthday-osaka.jp

ハッピーアースデイ大阪2012秋
2012.10.20.sat | 21.sun
11:00-17:00 | 10:00-16:00
場所 久宝寺緑地 修景広場

ハッピーアースデイ大阪2012秋の気になるイベントを紹介!

大なわとび大会
スポーツの秋! みんなで一緒にピョンピョンと大縄跳びにチャレンジしませんか? 参加チームを大募集!

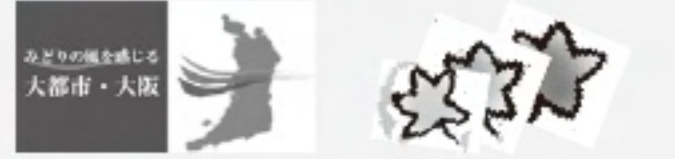
ハッピーエコ検定
まだまだ知らない環境問題についてクイズ形式で学びます。全問正解して素敵な景品をゲット!

ハッピーアースステーション
会場の様子をインターネットで配信! たくさんの方が登場し、会場を盛り上げます!

匠の技!ものづくり体験教室(20日)
スゴい技を持った技能士さんが登場。いろいろな職業を体験しよう!

おもしろ自転車試乗会(20日)
環境にやさしく、健康にもよい「自転車」自転車でみどりを満喫しませんか?

みどりの風を感じよう!
みどりの風を体感してもらえるメニューを企画中。詳細は近日発表!お楽しみに!



*内容は一部変更になる場合もございます。ご了承ください。

A ダッシュュ祭開催!!

9月16日(日)に芦原橋にあるAワーク創造館にてA祭りが開催されました。

当日は多くの来館者がいて、出店しているお店もガラス工芸品を販売しているお店や、飲食物を販売しているお店など様々なお店があり、とても活気あるお祭りとなりました。



私は青年部として「チキンナゲット」のお店を出店したのですが、わずか2時間で用意していた4個入り100セットが完売しました。今回は、青年部メンバーの他に、地元の中学生1名にもお手伝いしてもらい出店したのですが、その中学生もテキパキと働いてくれ「とても楽しかった」と話してくれました。



秋の期間は短いけれど、私の心は満喫・満腹なんちゃって、ワンワン!!

いつもの大きな空なのに、いつもより目がキョロキョロ動いて止まらない。さば雲・いわし雲・うろこ雲。だって素敵なお空だもん。

美しい虫の声がたまらない。だって芸術の秋だもん。

いつもの公園を歩いているのに、いつもより鼻がクンクン動いて止まらない。美味しいにおいがたまらない。だって食欲の秋だもん。

「散歩いこうー!」とお母さんの声が聞こえた。「ワンワン! (行く! 行く!)」と私は尻尾をふった。



秋、満喫
プーペのワンワン



hidarimakiの
この逸話

イージー・ライダー



監督：デニス・ホッパー
製作：ピーター・フォンダ
音楽：ザ・バンド
キャスト：ピーター・フォンダ
デニス・ホッパー
製作：69年米
カラー作品・55min
出版社：新ソニービクター
エンタテインメント

千里丘陵で日本万国博覧会が開幕したのは1970年だった。そろそろ「人類の進歩と調和」とかいうスローガンのもと、国民の大半が「パンバク」という見世物行列に並んだという。経済成長真っ盛りの日本にあって「人類の進歩と調和」は、わが小市民の脳天気な自由感をいやがうえにも刺激した。しかし、沖縄からは爆撃機が飛び立ち、米軍のベトナム北爆や光化学スモッグの注意報が連日報道され、キノホルムによるスモン病や水俣病の問題はなおざりにされた。作家の三島由紀夫が自衛隊駐屯所に突入し自決した年でもある。

多くの人間がかかえる共通の苦悩を省みることなく、「進歩と調和」という共同幻想を謳歌してきた結果が原発でもあったのだが、70年の混然とした背景のただ中、ベトナム戦争の疲弊漂う米国内で製作された「イージー・ライダー」という映画の封切は、僕に自由とか正義という「ものさし」の改変を迫った作品だった。

「イージー・ライダー」は、コカインで大もうけしたビリーとキャプテン・アメリカの2人の若者が、ハーレーのチョッパーバ

イクにまたがり、自由を求めてメキシコからフロリダに向かう途上のエピソードを描く。見た目の風体でモーターオーナーから宿泊を拒否され、大地に根を張って生活をするカトリック家族たちの歓待を受けたり、自由を言いながら狂信的で閉鎖なヒッピーコミュニティの共同生活も経験する。旅の途中でさまざまなアメリカの「自由」を体感するが、しかし自分たちの自由とはなじまず、そこから立ち去ることで再び安逸な浮遊の旅に戻っていく。

二人はある町のバレードに遭遇し、不当に逮捕され留置場に拘留される。都会のような自由さはこの町では味わえなかった。この留置場で酔っ払いの弁護士に遭遇し、彼は「ここは長髪を切る町、美化運動の町、市民自由連盟という名の白人優先の町」だと教え、旅に同行する。ニューオーリンズに至る南部の町のカフェでは、シェリフや町民から口汚くののしられるのだが、「怖がっているのだ。君らをではなく自由を象徴している君らの長髪にね。自分たちの自由を証明するためなら、自分たちの自由のために殺人もする連中だ」。そう言う弁護士だったが、その夜、野営地で「自由を証明する連中」の襲撃にあい殺される。

そして、キャプテン・アメリカとビリーもフロリダに向かう途上のハイウエーで、バイクもろとも銃撃され惨殺される。「アタマを刈れ」とののしられながら。

ステッペン・ウルフや、ジミー・ヘンドリクス、バンドなど、時代を象徴するミュージシャンたちのロックが映像を引き立て、映像を牽引した。そしてこの映画で僕らは、言葉や論理ではなく実存を見て肌に泡を立てていたのだった。一方で、アメリカの正義や自由とは、人を殺す正義や自由もあること、その証拠がベトナム戦争であり、沖縄でもあることを「人類の進歩と調和」の自国で実感させられた。しかしその現実は今も何も変わりはない。

